



平成21年12月議会一般質問

(抜粋)

1.21 年度補正予算の執行停止による本市への影響について

質 問

前政権で成立した第1次補正予算は、新政権の見直しにより、一部執行が停止されたが、地方自治体への影響は大きい。本市に与える具体的な影響はどのようなものがあるか。

答 弁

校正労働大臣から通知があった「子育て応援手当」の執行停止と「経済危機対策公共事業などデジタル放送対応事業」のうち「小中学校地上デジタルテレビの整備に関する、地上デジタル対応チューナーの購入及びアンテナ設置工事に対する補助金の二つです。

再質問

それらの事業についてはどのように対応するか。

答 弁

「子育て応援特別手当支給事業」については、国の交付金を財源として実施する事業であるので支給を取りやめざるを得ないこととなった。

この執行停止に伴い「わが町子育て応援手当」についても、国の手当を補完するための手当であるのでごんねんですが取りやめることとしました。

なお、地上デジタルテレビ対応チューナーの購入及びアンテナ設置工事についてはデジタル放送の受信に支障が無いよう537,000円を一般財源で対応する。

再質問

補正予算の執行停止は景気に与える影響も大きく、国では本年度税収が37兆円を割りそうだが本市の今年度税収はどうか。

答 弁

20年度にくらべ約20億円位の減収となりそうです。

再質問

大変厳しい財政状況の中で22年度の予算平成をするのだが、市長はどのような姿勢で編成に臨まれるか。

答 弁

今年度に比べ来年度は更に厳しい状況になるかと思うが、健全財政を維持するよう千恵を絞り創意工夫をして取り組んでいきたい。

2. 内部統制について

企業と違い地方公共団体には内部統制が義務付けられているわけではないが、地方公共団体でも資金の不適正経理や事務処理ミス、あるいは法令違反などの不祥事が表面化している。そして総務省では平成19年に「地方公共団体における内部統制のあり方に関する研究会」を発足し内部統制について研究を始めた。

質 問

本市における内部統制の取り組みはどうか。

答 弁

業務の有効性・効率性を図る取り組みとしては事務事業評価や組織・機構の見直しがあります。財務報告の信頼性を図る取り組みとしては、財務4表や財政健全化法に基づく4指標を策定し公表しております。法令などの遵守を図る取り組みとしては、公益通報制度の運用や違法・不正な事柄に対する厳正な処分を実施している。今後、環境の変化をふまえ内部統制のありかたについてもさらに研究していきたい。

要 望

個々の職場ではいろいろ取り組まれているが、市長をトップに全ての職員が認識をひとつにしていくことが大切なので、更に研究をしてほしい。

3. 教育問題

HQCの取り組みについて

質 問

児童生徒の健康を自己管理するHQCという素晴らしい取り組みがあるが、本市の取り組みはどうか。

答 弁

平成17年私が校長の時に富士見中学で最初に取り組み、今では小中学校の約半数で取り組んでおります。

要 望

素晴らしい取り組みであるので是非他の学校でも取り組んでほしい。

小中一貫教育について

質 問

小学校6年生が中学に出向いて授業を受けることは中一ギャップを無くすために意義あると思うがメリットはどのように考えるか。

答 弁

広い意味での中一ギャップの解消や、施設の共有による合理化などがあると考えます。

質 問

本市で小学校がそのまま中学校に進学する学区はどの位あるか。

答 弁

7学区あります。

質 問

それらの学区で小学生が中学へ出向いて授業を受けることについて課題は何か。

答 弁

教育課程の位置づけ、教員免許の有無、移動時の安全確保などです。

質 問

教員免許も問題が一番の課題のようだが、本市の小中学校教員のうち、小学校と中学校の両方の免許を持っているのはどの位いるか。

答 弁

約3割おります。

要 望

是非できることから鳥君でほしい。

読書指導について

質 問

コンピューターの時代となってもその使い手が人間である限り、人間性を育て、形作るのに読書が重要な役割を果たします。

その読書が最近携帯小説などが増え、歯ごたえのあるものを避けて安きになられる傾向があるというが今後の読書指導は量から質に返還する必要があると思う。

本市学校での読書指導はどのように行われているか。

答 弁

平成18年度に「熊谷市子ども読書活動推進計画」を策定し、それにより学校における読書活動を推進している。

また市費による学校図書館補助員を全校に配置し読書指導をし、魅力ある読書活動を推進している。

要 望

ソクラテスは読書について「書物を読むということは、他人が辛苦してなしとげたことを、容易に自分に取

り入れて自己改善をする最良の方法である」とっております。

しっかりとした読書指導を続けてほしい。